

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271800193		
法人名	有限会社 旅路		
事業所名	グループホーム 旅路		
所在地	千葉県東金市家之子1671番地31		
自己評価作成日	平成28年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成28年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな静かな所で、追われる事の無いゆったりとした生活を送って頂けるよう心掛けています。理学療法士によるリハビリ指導・内科医・歯科医による往診・映画上映会や誕生会等参加自由の催しも用意してございます。スタッフは終のすみかとしてご利用頂く方一人ひとりに対し、悔いの残らないかわりが出来る様心がけています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム旅路」は民家改修型の施設となっており、周辺の環境に溶け込んだ外観となっている。新たにロジック棟を増設し、2ユニットの施設に改修している。施設内は、エレベーター・階段昇降機・リフト浴槽を設置しており、入居者の身体状況に応じた柔軟な支援を可能としている。また、作業療法士によるリハビリメニューの作成・実施を行っており、入居者の身体機能の維持・向上を図っている。「その人らしい自由な生活」を主眼とした理念を掲げており、個別または少人数での外出・リクエストメニューでの食事提供等、様々な工夫を凝らし、入居者が楽しく生活できるよう支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の見えやすい所に運営理念を提示し、管理者は日々職員に指導を行う。	「その人らしい自由な生活」を主眼とした施設理念を掲げており、事業所内に掲示している。理念においては、日頃の申し送り時等を活用して確認及び周知を図っていると共に、入職時や必要時に研修を開催し、理念の共有に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のスーパーや道の駅での買い物・認知症カフェへの参加等行い、日々ケーブルテレビで地域を感じられる情報を利用者と共有している。 散歩をしながら地元住民との交流を持つ	地域住民とは挨拶・声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加・ボランティアの受け入れ等を通じて交流を図っている。定期的に地域の認知症カフェに参加する等、様々な形で地域との関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェに職員・利用者と共に参加し、地域の人々との交流や他施設職員との情報共有の場を持っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々利用者やご家族の疑問や心配事を受け付け、それを議題として会議を進める。サービス内容の報告等も行い、意見があがればサービスに反映させている	運営推進会議は年6回開催しており、市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・入居者・家族等が出席している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換を行っており、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や日々の連絡の中で、お互いに必要な情報や実情を相談しあっている	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行い連携を図っている。また、市で行われる研修にも参加しており、サービスの質の向上に向けた協働体制を構築している。その他にも東金市地域密着型施設連絡会に参加しており、市職員や同業者との意見・情報交換を行う機会を設けている。	

【千葉県】グループホーム旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の中で身体拘束に対する施設としての方針を指導し、拘束の必要性について話があがる際も、簡単に判断をしないよう、利用者の権利擁護に努めている。夜間等職員一人の時間は玄関の施錠を行っている	身体拘束排除・権利擁護等の外部研修参加及び内部研修実施を通じて、職員へ意義の周知・共有を図っている。今年度、新たに施設を増設したことによる安全確保やリスク等を研修にて確認し、対応方針を検討しており、自由な生活を支援するための工夫を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の開催を行うと共に、利用者の声や身体の状況を確認しそのようなことのない様努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学んでおり実践できる状況にあるが、相談の結果現在該当する利用者は居ないと判断している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や介護計画等において説明すると共に、十分な時間を持って相談を重ねている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部意見(苦情等)申し立て先について説明し、面会や運営推進会議等にも要望を伺い、日々反映させている。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議等を活用して、意見・要望の確認を行っている。また、入居者の生活の様子・健康状態を記載した「けんこうだより」を発行しており、家族との信頼関係構築に努めている。挙げた意見・要望においては、会議や申し送り等を活用して周知・検討を図り、適切な改善に努めている。	

【千葉県】グループホーム旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の報告・相談や会議内での提案等を行える状況を持っている	定期的な会議を開催しており、職員の意見や提案等を確認していると共に、個別に意見・思い等を確認する機会を設けて、職員の意見を反映させた運営体制を築いている。夜勤専属スタッフの配置を行い、職員の負担軽減を図る他、有給消化の励行・研修費用の負担等を行い、働きやすい職場環境の整備を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	皆勤手当や賃金の土日割増等を創設した。労働時間等についても職員個々の事情に合わせる等行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が職員と一緒に現場に立ち、力量把握の機会を持っている。外部研修の案内や内部研修の参加を促す等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加や認知症カフェへの参加を推進している。外部研修は出勤扱いとし交通費や受講費用を施設負担している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に対話の機会を持ち、導入時には本人の思う事を理解できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入以前の生活状況や要望等を伺う機会を持ち、信頼関係を結ぶよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の相談があった時点で、関係各所との相談の元、当施設が適しているのかの検討を行っている。		

【千葉県】グループホーム旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力に応じて、家事活動等への参加を促す等行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外泊等に制限をせず、家族の行える範囲での利用者の生活や気持ちをささえる様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内の結婚式への参加が行えるよう、準備等を支援した。なじみの場や人が不明な場合もある	家族・友人・親戚等の来訪を随時受け付けていると共に、外泊や外出も自由となっており、馴染みの関係継続に配慮している。また、少人数・個別の外出機会も設けており、馴染みの場所での楽しみを支援している。その他にも、昔の映像等を上映する等、入居者が思い出を楽しめる工夫を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人同士の関係から食堂での席配置等検討し、必要に応じ変更している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を引出す様交流を行うと共に関係各所からの情報提供を受け、日々職員間で本人の意向を達成できるよう支援している	入居時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて、医療機関や他事業所からも情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。日々の記録・申し送り・会議等を活用して、職員間で常に新しい情報が共有できるよう努めている。	

【千葉県】グループホーム旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。事前に情報を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察やリハビリの機会を持ち、把握を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・関係者・家族との相談や報告を行っているが、家族の担当者会議への出席は行っていない。面会時や電話連絡にて家族の意向確認をしている	入居者・家族の意向を確認した上で職員間で検討しながら介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要時または定期的に介護計画の見直しを行っている。計画作成担当者は日頃の支援にも関わっており、現場目線・現場の声を取り入れた介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンを活用した申し送りや気づきの報告を行い、全職員がその内容を確認してから相談を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や地元での外食。インフォーマルなサービス(前述の結婚式や散髪等)についての相談や実施の機会を持っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の能力や希望・今まで本人が関わってきた地域の資源の把握に努め、可能な範囲で支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をまず確認し、往診医による包括的な医療支援を受けられるようにしている	定期的に内科医・歯科医の往診や掛かりつけ医への受診を行っており、適切な医療支援を行っている。また、訪問看護を実施しており、適切な健康管理を行っている。作業療法士による訪問リハビリを実施しており、入居者の身体機能の維持・向上を図っている。	

【千葉県】グループホーム旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の派遣を受け、書面や口頭での相談による看護を受けられるようにしており、急変の際も重点的に看護を受けられる体制を持っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直接面会または電話連絡等を行い、それ以外にも互いにサマリーを発行する等情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス導入時点での説明・意思確認を行うと共に、体調等の変化があった際にも再度意思確認を行っている	入居時に終末期・重度化における施設方針の説明や意向の確認を行っていると共に、必要時・状態変化があった場合等に再度家族の意向を確認するよう努めている。家族の意向を確認した上で、医療機関を含めて検討し、意向に沿った終末期を支援できる様協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講や、施設内でのマニュアル整備・職員への周知を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度法令上の避難訓練を実施し、緊急避難用の設備についての説明を行うと共に、地域消防団の見回り等がある	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、定期的に避難訓練及び設備点検を実施している。訓練では、消防署立会い訓練・夜間想定訓練等を行い、状況に応じた避難方法の確認を行っている。また、上級救命救急士育成に取り組んでおり、緊急時における対策も講じている。	

【千葉県】グループホーム旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの求める言葉や態度を把握し、対応するよう努めている	施設理念に「その人らしい自由な生活」を掲げており、入居者の希望に合わせた支援の実践に取り組んでいる。個人記録をパソコンで適切に管理する他、職員が入職する際に秘密保持の契約書を交わしており、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な判断や希望等を自己表明できるよう、まず本人が思うようにやっている事を見守る事を徹底しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールを押しつけず、1人ひとりの希望に合わせた生活が送れる様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝間着と普段着の区別をつけ、化粧等を施す機会をもっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて食器洗い拭きや下膳に関わって頂いている。現在食事介助を要する方がいらつやる為、利用者を急がせない様職員は別の時間に食事をとっている	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立作成及び食材の配送を業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。定期的に外食行事・行事食の提供・リクエストメニューの実施等を行っており、食に対する楽しさを提供している。また、第三水曜日は刺身の日にする等、入居者の希望に応えた工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて記録を行うと共に、材料・メニューの配達サービスを受け栄養バランスの確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助を能力に応じて行い、毎食後に口腔ケアを行えるようにしている		

【千葉県】グループホーム旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄があるごとに記録を行い、全員に対し便座に座って排泄をする機会を持つ等対応をしている	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄状況を把握しており、声掛け・トイレ誘導等を行いながら排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間はポータブルトイレの設置やトイレ誘導にて対応し、適切な排泄支援を行っている。また、乳製品の提供・体操の実施等、工夫しながら自然排便を促すよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や体調・食事形態や運動機会の確保・排泄内容の管理を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は事前に大まかに決めているが、その日その日の本人の希望に合わせて柔軟に対応している	入居者の希望や体調に応じて柔軟に対応しながら適切な入浴機会を確保していると共に、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。リフト浴槽を設置しており、入居者の身体状況に応じた入浴支援が可能となっている。	
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し、「眠くなったら寝る」事が出来る様職員の都合で寝床にお連れすることはない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の一覧をいつでも閲覧できるようにし、日々の様子を細やかに医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や炊事・掃除やレク活動等本人の能力や希望に合わせて役割を持てるよに支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物・地域の催しや時節の催しにて外出の機会を設け、出かける意欲を引き出せるようにしている	日頃から散歩・買物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けている共に、ウッドデッキやベランダを活用して、外気浴等を気軽に楽しめるよう支援している。定期的に外出行事等を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。その他にも、陶芸・リハビリ等の室内レクリエーションの充実化を図り、入居者の生活の活性化を図っている。	

【千葉県】グループホーム旅路

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族との相談の元本人の能力を見極め、財布を自身で管理して頂く等を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛ける事を制限せず、年賀状等に自筆のあいさつを記入して頂く等している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾や落ち着いた色の照明等を用意し、ウッドデッキやソファ等本人が好きにくつろげる空間を持っている	施設は新たにロッジ棟を新設し、2ユニットの施設となっている。共有スペースには、椅子やテーブルを配置し、入居者が自由にくつろげる環境となっている。また、階段昇降機やエレベーターを設置しており、入居者の身体状況に合わせた設備を導入している。研修にて、安全確保の方法・危険個所の確認等を行っており、入居者の安全面に配慮した検討・対策を講じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席以外にもソファを設置し、好きな場所で過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等、私物のご持参を制限せず、なじみある空間で過ごせるようにしている	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できる様配慮している。また、ポータブルトイレの設置や布団を敷く事も可能となっており、生活歴に応じた居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺等本人の生活に合わせて直ぐに増設・撤去を行うようにし、本人の能力を最大限に生かせるよう日々観察・相談を行っている		